

〔Ⅱ〕 特別教室における

能力別グループ学習と席について

鈴木 孝

1 はじめに

本校の理科教室（物理、生物、地学）は、教卓に向いて3人すわりの長机である。実験など作業をする時は、前後2つの長机を合わせて行なうようになっている。

化学教室だけは、右の図のように生徒同志が向き合うようになっている。授業中は頭又は身体を90°ひねってうけなければならない。前列の生徒と後列の生徒は、授業をうける様子が異なると予想される。

一方、一般に学力は中学3年頃に固定されてくると考えられている。

しかし理科においては、まだ固定されないと考えられるので、能力別グループを編成した。その中で各人が持っている学力をのばし、学習理解力を深めさせることができるのではないかと考え調べてみることにした。

2 能力別グループ編成について

そこで、本校の中学3年生（抽選で入学）2クラス87名を1年間化学教室で教えることになった。

1学期の中間テストまでは、出席番号順に男、女2名ずつの4名のグループを作った。

中間テストが終わってから期末テストまで、中間テストの成績で下位の者から順に男、女2名ずつの4名の能力別グループを教卓から近い順に席をきめた。

1学期の期末テストが終われば、2学期の中間テストまで自由になかよしグループ（結果的には、男女別のものになった。）で席をきめさせた。

中期テストが終われば、前回と同様に中間テストの成績で下位の者から順に男、女2名ずつの4名の能力別グループを教卓から近い順に席をきめた。

最後に次のようなアンケートをとってみた。

アンケート _____ 組 氏名 _____

1. 席について

- a いままでの席のきめ方で良いと思ったものは、下の中(1)~(3)のどれか。()
- b 自分をもっとも学習に専念できた席のきめ方は、下の中(1)~(3)のどれか。()
- (1) 自分の好きな子と自由にすわる。
 - (2) 番号順に席をきめる。
 - (3) 成績順に席をきめる。

2. 成績順に席をきめた時について

- a 前の席にすわった人
- (1) ききやすい場所で、しっかり学習ができる。このことがわかった。(はい、いいえ)
 - (2) 前にすわってはずかしかった。(はい、いいえ)
 - (3) 今度はしっかりがんばろうと思った。(はい、いいえ)
 - (4) 理科が前よりきらいになった。(はい、いいえ)
 - (5) 先生目がゆきとどいて、授業に緊張感ができた。(はい、いいえ)

b 後の席にすわった人

- (1) ききにくいことや黒板がみにくく学習に身がはいらない面があった。(はい、いいえ)
- (2) 後にすわって優越感を感じた。(はい、いいえ)
- (3) 学習にはげみができた。(はい、いいえ)
- (4) 理科が前より好きになった。(はい、いいえ)
- (5) 先生目がとどかなく、自分の好きなことができるようになった。(はい、いいえ)

3. 次の文にあたるものに○をうちなさい。

- (1) 自分なりに、いつも一生懸命がんばっている。
- (2) 今度もがんばろうと思って、しっかりがんばったがあまりかわらなかった。
- (3) 今度はがんばろうと思って、しっかりがんばったら自分が思っていたよりよくできた。
- (4) がんばろうとは思わなかった。

4. グループ全体について

- (1) 同じくらいの力の人のグループの方がみんなで

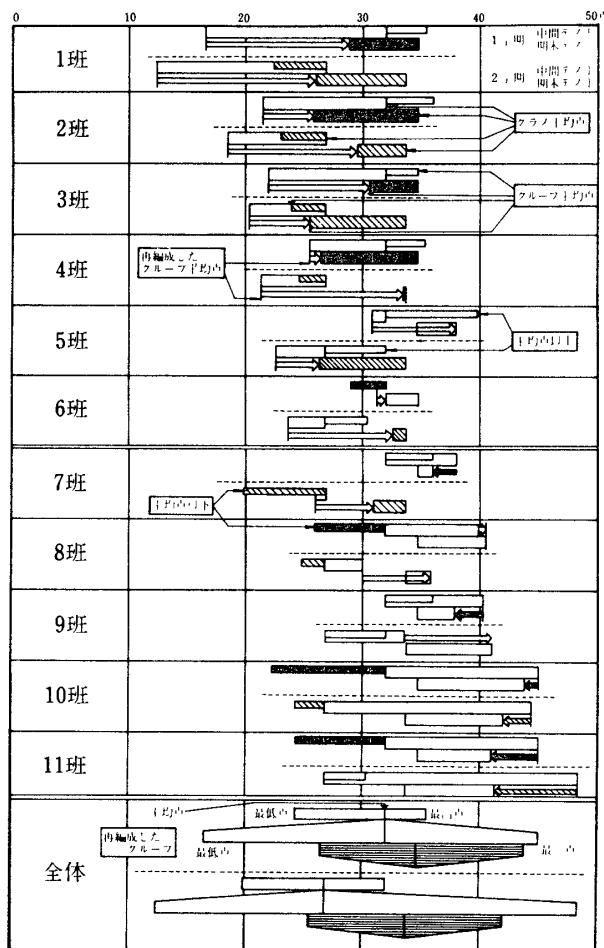
話し合いがうまくいく。(はい、いいえ)
 (2) よくできる人がグループの中に1人ぐらいいた方がいろいろと教えてもらえて授業にも身がはいる。(はい、いいえ)

(3) 自由な、なかよしグループの方が学習に身がはいる。(はい、いいえ)
 5. 4の3つのグループでよいと思うのはどれか。()

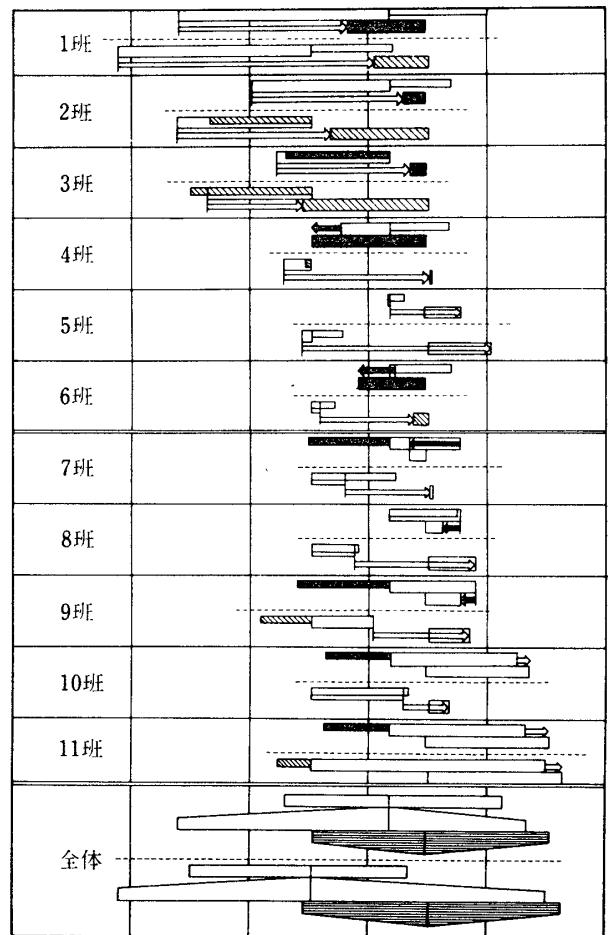
3 各グループの成績とアンケートの結果

(1) 各グループの成績結果

中3 A (男子 22名 女子22名)



中3 B (男子 21名 女子 22名)



(2) アンケートの結果

中3 A 40名 中3 B 43名 合計 83名

1 席について

2 成績順に席をきめた時について

a 前の席にすわった人

組		A組	B組	合計
a	(1)	25	27	52
	(2)	4	7	11
	(3)	11	9	20
b	(1)	13	12	25
	(2)	6	4	10
	(3)	21	27	48

	A組		B組		合計	
	はい	いいえ	はい	いいえ	はい	いいえ
(1)	15	13	22	10	37	23
(2)	10	18	12	20	22	38
(3)	23	5	31	1	54	6
(4)	9	18	12	20	21	38
(5)	15	12	25	7	40	19

b 後の席にすわった人

	A 組		B 組		合 計	
	は い	いいえ	は い	いいえ	は い	いいえ
(1)	11	14	12	17	23	31
(2)	3	22	0	29	3	51
(3)	9	15	11	18	20	33
(4)	13	12	10	18	23	30
(5)	2	23	3	26	5	49

3

	A 組	B 組	合 計
(1)	10	15	25
(2)	24	20	44
(3)	9	12	21
(4)	1	3	4

4 グループ全体について

		A 組	B 組	合 計
	(1)	は い	19	21
	いいえ	21	22	43
(2)	は い	27	26	53
	いいえ	13	17	30
(3)	は い	22	21	43
	いいえ	18	22	40

5

	A 組	B 組	合 計
(1)	8	12	20
(2)	16	13	29
(3)	14	16	30

席のきめ方について、生徒たちは自分の好きな子と自由にすわりたいと思っている。反面自分たちがもっとも学習に専念できるのは成績下位順に席をきめた時だと認めている。

実際、成績の結果からもそのことが十分うかがえる。出席番号順に席をきめた時（1学期の中間テスト）、班平均点の最高最低の差と、なかよしグループで席をきめた時（2学期中間テスト）における同様の差はあまりかわらない。

（A組 12.2点と12.1点、B組 17.7点と18.2点）

しかし、能力別に再編成した班平均点の同様の差は大きくなっている。

（A組 28.5点と35.9点、B組 29.3点と36.0点）

次に最高、最低得点グループについてであるが、クラスの平均点が低下（A組 32.0点から26.8点へ、B組 31.8点から25.2点へ）しているのにもかかわらず、最高得点グループは前より得点を増加させている。それに対して最低得点グループは、得点を減少させている。なぜ、このような現象があらわれたか、アンケートの答えから生徒自身気がついている。

成績上位層にとっては、成績と席はあまり関係がないが、下位層にとっては、非常に深い関係があると考えられる。

なかよしグループで席がきめられれば、下位層には授業態度に気のゆるみがあれば各自がもっている学習能力を十二分に発揮させることなく過ぎていってし

まうのではないだろうか。また、あとで友だちにきけば教えてくれるのではないかといった他力的な学習態度に流れているのであろう。

上位層には、そのような様子があまりみられない。

それにくらべ、能力別グループを編成して教卓に近い机から成績下位層がなるので、周囲がなかよしグループでないため、学習態度も異なってくる。さらに同じくらいの力をもった生徒の集まりであることにより、友だちに聞けばいいといった他力的な学習態度もなくなり、緊張感が出てくると考えられる。

その結果、成績下位層の努力が十二分に成績にあらわれている。（A組 16.5点から26.5点へ、12.4点から25.5点へ。B組 14.0点から25.3点へ、8.9点から24.5点へ）

以上の様なことから、中3という時期において理科の学力は、数学、英語のようにある程度固定化してきているように考えられがちであるが、それはまちがいであり、本人にあった環境を整えてやり、さらに本人が努力すれば、それなりに学力をのばすことができる可能を持っていることがわかった。

4 おわりに

多様化してくる生徒の能力を十二分に発揮させるには、それ相応の環境を整えあえてやるのが、生徒本人に非常に大切であることがわかった。